

所蔵作品の修復報告

—昭和48年4月より昭和49年3月まで—

長谷川三郎

国立西洋美術館では、昭和48年度中に下記4点の所蔵作品の修復を行った。修復はいずれも絵画修復家黒江光彦氏による。なおこの修復報告は黒江氏の修復処置記録に基いて作成したものである。

1 (P・1959—105)

ポール・ゴーガン《ブルターニュ風景》

1888年 油彩 カンヴァス 89×116.5 cm

この作品は全面にわたって絵具層に大小の欠損部分及び剝離箇所があり、また塵埃の付着によって色彩効果も損われていた。

修復処置：蜜臘およびダンマル樹脂等の混合接着剤を用いて剝落箇所周辺及び剝落箇所を固定。作品裏面の除塵。テレピン精油、アルコール、ミネラル・スピリット及び一部に弱アンモニア水を使用して画面を洗浄。胡粉+チタン白+ポリビニール・アルコールによって絵具の欠損部分充填。デトランプによる補彩。マツ・ニスによる保護膜塗装。

2 (P・1959—137)

アンリ・マルタン《自画像》

油彩 カンヴァス 55×64.3 cm

左頬髯部分に絵具の剝離。

修復処置：蜜臘およびダンマル樹脂等の混合接着剤による剝離箇所（1カ所）の固定。

3 (P・1959—153)

クロード・モネ《陽を浴びるポプラ並木》

1891年 油彩 カンヴァス 92.5×73.5 cm

この作品は、絵具層のカンヴァスへの固着が弱く、常に亀裂・剝離の危険にさらされている。今回は画面中央部に絵具の剝離箇所が発見された。

修復処置：蜜臘およびダンマル樹脂等の混合接着剤による剝離箇所（1カ所）の固定。

Rapport de la restauration des tableaux dans la collection du Musée (avril 1973 —mars 1974), par Saburoh HASEGAWA

なお、本作品は昭和49年度中に全面裏打ちによる絵具層の固定修復を行う予定である。

4 (P・1959—194)

ヴァン・ドンゲン《ターバンの女》

1922年頃 油彩 カンヴァス 65×54 cm

右眼上睫毛部分に、湿度の急激な低下が原因と思われる絵具の剝離。本作品は保存状態良好で絵具の剝離が発見されたのは初めてである。

修復処置：蜜臘およびダンマル樹脂等の混合接着剤による剝離箇所（1カ所）及び剝片（1片）の固定。